

平成28年11月17日

日向市長 十屋 幸平 殿

〒883-0004 日向市浜町 3-29

黒木紹光

## 申入書

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

表題の件、市に対して、以下の理由と内容を持ちまして、要望を申入れます。

この度の私とA社との争いに関する日向市への陳情を通して、市政への期待は少なからず裏切られ、改めて、市職員の市民軽視、市政へ取り組む基本姿勢への疑問を感じた次第です。

また、同時に、私がインターネット上で実施している情報公開によって、日向市民に市政の現状が伝わり、賛同する者からのメッセージや関連する情報提供がごさいます。

その中に、日向市が発注する公共工事に対する疑問、不満が複数含まれております。その内容は、一部の特定業者のみが公共工事の恩恵を享受している。市が発注する公共工事のほとんどは談合によって決められている。市職員は、そのことを十分分かっている筈だが、見て見ぬ振りをしている、といったものです。中には、日向市と業者との癒着を示唆する情報もごさいます。

そこで、改めて統計（別添資料「日向市建築工事入札」）を作成してみると、なるほど過去2年半余りの間に発注された新市庁舎建設工事以外の案件について、談合によって決まったとしか考えられない、極めて不自然な結果資料となりました。これでは、疑問や不満を持つ市民がいるのは当然です。

さらに、こうした疑問や不満は、日向市職員への不信感を膨らませています。

そして恐らく、日向市民が感じている疑問や不満と、今回の陳情によって感じた私自身のそれは、同じものではないかと考えます。とりわけ、同封いたしました録音記録の8日の面談において、**建築住宅課の課長、係長のA社寄りの発言（特に、1:30～5:20、33:00～36:00）に、強い不信感を抱きました。**

このような客観的事実を繋ぎ合わせると、必然的に、日向市と業者との癒着の疑念が現実味を帯びてきます。

よって、以下の内容の実施要望を申入れます。

#### 1. 入札業者への実態調査

#### 2. 発注担当市職員への調査

過去5年間の談合の事実の有無を把握しているか？ 落札率と高値率の差がほとんど1%未満に治まるのはなぜか？ **現状のような高値入札ばかりだと、日向市民にそれだけの負担（損失）を強いていることになるが、入札方法の改善に着手しないのはなぜか？**

#### 3. 改善活動の着手

入札業者に対して、談合及び顧客イジメなどの反社会的行為をしないよう強く戒める文書を配布する。また、日向市に、日向市入札業者が談合及び顧客イジメなどの反社会的行為をした場合の通報窓口（電話、メール、直接）を独立して設ける。

#### 4. 情報公開

1～3の結果を整理して、日向市民に対して、日向市ホームページを通じてお知らせする。

以上、1～4の年内実施を要望します。また、要望に対して了解か否か、11月25日までにご回答ください。もし万が一了解できない場合は、日向市民が納得できるだけの理由と根拠をお示しくください。

尚、この要望は、決して私の個人的なものではございません。多くの日向市民の中に、市政に対する疑問や不満、さらには日向市職員への不信感が鬱積しており、私は、日向市民の声を代表して申し上げている次第です。

したがって、この要望に対して正面から向き合うことは、日向市民の市政への信頼回復に寄与致します一方、却下することは、不信感を決定的にするものと考えます。

その点、**私は、市政の混乱を招くことは避けるべきと考えますが、それでも尚、市民のための市政実現の方がより重要だと考えている**次第です。よって、具体的なお対応を頂けない場合は、これまでに頂いている市民からの市政に関する情報及び今回の経緯を情報公開し、市民のための市政実現へ向けて、新たに問題提起致しますことをご承知おきください。

以前にも申し上げたと存じますが、日向市の多くの民間企業、とりわけ、農林水産業などの第一次産業、製造業、小売・サービス業等に従事している方々は、日々10円のコスト削減に取り組みながら、千円、1万円の売上を上げるために、血の滲むような苦労や努力を強いられています。そして、そこには、ほとんどの場合、多額の補助金も行政の恩恵も得られることのない、孤立無援のぎりぎりの戦いの姿があります。

私自身もまたその中の一人ですから、それがどんな戦いなのか、どれだけの苦労や努力を強いられるのか、どのような思いを抱いているのか、よく分かりません。

私が申し上げたいのは、一公務員の立場や、個別企業の利益や、一部の関係者の都合と言った狭い了見に拘るのではなく、声なき多くの市民に目を転じ、そうした大多数の庶民のため、世のためにどうすべきかを考えることが、公職の立場にいる者の責任ではありませんか？ということなのです。

過去、市政においても、県政においても、国政においても、間違いを犯した罪深い者達は皆、この価値観が決定的に欠けているのです。

もちろん、市長殿は、絶対に、そのようなことはないと信じています。

どうか、公僕としての責務と使命に従い、時代の要請や市民の声をしっかり受け留め、善処のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白